

[長崎県病院企業団通信]

ふくよか



2016春号

■長崎県病院企業団本部
■平成28年4月発行

目次 CONTENTS

p2.....企業長より

『おもてなしの心』の光と影

p3.....話題の職員紹介

島原病院 徳永新病院長

p4.....特集① 変わる！新専門医制度とは？

どう変わる？ 新制度を解説します

p6 特集② DPC制度の導入が始まります

DPC制度の基本をご紹介します

p7 地域から

上対馬病院 ～九州最北端の医療を守る～

p8 Break Time

[山登りのすゝめ]

vol.
07

『おもてなしの心』の光と影

企業長 米倉 正大

2020年の東京オリンピック誘致の時、さんざんテレビ放映されたあの滝川クリステルさんの「おもてなし」が成功に導いた力は大きかったのではないだろうか。「おもてなし」は、相手の思いを

押し量って対応するという日本人にとっては、子供のころから教え込まれた得意技であるが、意外と外国人には苦手なようである。

最近の報道によると昨年の訪日外国人観光客は、目標をはるかに超え、2千万人に到達するような勢いである。もちろん日本の名所旧跡や温泉などが人気を博しているようだが、「おもてなしの心」も大いに役立つようである。小学校の頃から、相手の気持ちを考えながらと教えられているし、社会人になっても長い時間を割いて接遇などがきめ細かに教育されている。

しかし「おもてなし」の心がけは、何も観光業界だけが必要なわけではない。わが医療界でも、医学生、看護学生の時から、

患者さんの満足度を高めることは基本中の基本であり、足りない分は職場での研修会で、「おもてなしの心」は、教え込まれている。

話は変わるが、最近はこちらでアンケートの分析を目にする。離島で研修の機会を与えられた医学生に対し『あなたは将来離島で働いてみたいと思いますか。』という問いに、100%近くの学生が『機会があれば、ぜひ働きたい』と答える。しかし、機会がないのかもしれないが、これまでに実際に働く人に出くわしたことがない。たとえ働きたいと意思を示した人でも実際に離島の医療に従事する人はほとんどいない。このアンケートの答えは真実を言っているのだからと考へてきたくなる。「おもてなしの心」が作用していないだろうかと思ふ。

また、私は年に一度、ある看護大学で2

時間の特別講義をしている。その講義で「チーム医療の重要さと看護師としてキャリアアップを積んでいくうえで環境を変えて仕事をする重要さ」を教え、長崎県の離島の病院で働く機会を作ってほしいということ話をしている。後日、学校側から聴講した学生たちのアンケートが送られてくるが、その中では、講義内容がよかったというお褒めの言葉や、一度は離島へき地で看護をやってみたいという感想が多い。

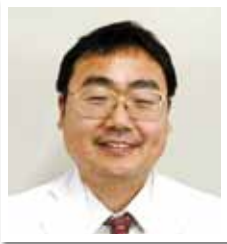
しかし、彼らがその思いを行動に示すことはない。学生は相手の気持ちを押し量るおもてなしの習慣がついているためなのか、講師がそれを読んで落ち込むようなことは書かない。おそらく、アンケートを読む人が、きつと喜んでくれるに違いないという思いを押し量り、「おもてなしの心」で、アンケートに答えているのではないかと思ふ。

「おもてなしの心」を詰め込まれた若者からは自分の本音が出ていないのではない

今回は、島原病院の院長に就任された
徳永 能治(とくなが よしはる)先生をご紹介します！

【略歴】

昭和58年3月 長崎大学医学部卒(脳神経外科医)
昭和60年6月 長崎県立島原温泉病院
平成6年8月 長崎大学医学部附属病院講師
平成15年6月 長崎県立島原病院診療部長
平成17年4月 同病院 副院長
平成21年4月 長崎県立島原病院に名称変更
平成28年4月 同病院 院長



私の外来診療目標

「診る医療、聴く医療、伝える医療」



長崎県島原病院 徳永能治

地域での診療の在り方は、地域の医療資源の質、量に左右され、その地域によって異なる対応や工夫が必要です。

「**診る医療**」とは、軽症、重症にかかわらず、一旦診ることから始める医療です。「相談があれば、まず診てみましょう」というこのスタンスは、地域医療には必要ですが診る側には勇気が要ります。それは、合併症が重い・複合疾患がある・自分の専門領域から少し離れているなど、自信がないときに自分で診ることを躊躇するからです。最初に伝わった情報だけで自分に診る能力があるか判断するのは難しいのですが、患者さんにとっては安心につながるので、目標にしています。

「**聴く医療**」とは、患者さんの要求や相談に耳を傾ける医療です。患者さんの声にしばらくジーッと耳を傾け、何を望んでいるか解るまで時間を作り、希望に沿った治療になるよう工夫したいという思いから目標に挙げています。

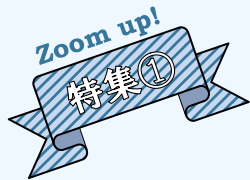
「**伝える医療**」の対象者は、患者さんご家族、そして紹介先の医療・介護スタッフです。これは、地域の医療を信頼し、患者さんの生活復帰の際に積極的に情報発信や紹介をすることです。まず障害を持ちながら在宅生活に移行する時に、次に受け入れてくれるスタッフに必要な情報をまとめることから始めようと思っています。また、患者さんを高次病院へ紹介した後、退院後に当地へ戻り入院や通院加療が必要になることもよくあります。この場合も当地での生活の再出発に十分考慮した紹介状の作成や説明が必要だと考えています。

これらは、どれも市民にとってはあたりまえな心掛けだと思いますが、例外なくどの患者さんにも実施することは大変困難です。紹介される患者さんのことを思い、この地域の市民、医療施設、介護施設、福祉施設の皆様からさらに多くの信頼を得るべく、まずこれらを目標に外来診療を始めています。

「だるうか。おもてなしの心には光と影がある」ということを、肝に銘じるべきであろう。昨年(2019年)の10月に、約1300名の若手医師にアンケートした「勤務先の病院選択において若手医師が考慮する要因の研究」の結果報告が発表された。予想通りの結果で、三次救急病院、当直勤務、離島・へき地の勤務などは不人気の代表であった。このようなアンケートは、する側とされる側が顔

見知りではなく利害関係がなければ、おもてなしの心ではない、真実の答えを言っているのではあろう。医師不足に苦勞している日本全国の離島・へき地の医療機関にとっては、厳しい話である。いづれにしても離島・へき地における医療人材確保の特効薬はなく、地道に情報を発信し、多様なシステムを作ることが大切である。どのような情報を発信すれば、人が集まるのか、ぜひ皆さんもいろいろなアイデアを出していただきたい。





変わる！新専門医制度とは？

質の高い医療を提供するため、専門医制度が大幅に変更されることになりました。新たな制度とはどのようなものでしょうか？概要をご紹介します。

—文・本部 総務人事班

これまでの「専門医制度」との違い

来年4月に養成が始まる予定の新たな専門医制度については、医師の方々は当然ご存じと思いますが、その他の方々は『？』の部分も多いのではないのでしょうか。今回は、新しい専門医制度についてご説明させていただきたいと思えます。

皆さんは「学会」という言葉を耳にされたことがあると思えます。多くの医師の方がさまざまな学会に登録されており、この段階では「登録医」ということになりません。その後、各学会が定めた条件をクリアすると「認定医」、より高度な知識や技量、経験を持つ医師であると学会に認められると「専門医」となります。つまり、認定医や専門医の基準は、各学会が独自に定めているのです。このことが、必ずしも専門医の質が担保されていないのではないか、専門医であることが受診の際の指標にならないのではないか、という指摘につな

がついてきました。

こういったことから、平成25年に厚生労働省は新しい専門医制度に関する報告書を取りまとめました。その内容は、中立的な第三者機関が専門医を養成するためのプログラムを認定し、それに基づいて各地の医療機関で研修を受けた医師を専門医として認める制度に改めようとするものです。

つまり、新しい専門医制度では専門医の質を担保し、医療に素人である一般の人が受診の指標にできることを目指しているのです。

専門医 II ブラック・ジャック？

専門医という言葉から、皆さんはどのような医師像を思い浮かべますか。手塚治虫の漫画「ブラック・ジャック」でしょうか。

新しい専門医制度は、2階建てになっており、まずは基本的な診療科である19領域のいずれかの研修(3〜5年)を修了する

ことにより、その基本領域の専門医の受験資格を得ることができきます。外科専門医を例にとると、最短では、初期臨床研修2年+外科専門医研修3年の計5年で受験資格を得ることになります。

中立的な第三者機関として研修プログラムや専門医の認定を行う日本専門医機構のホームページでは、専門医を「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験をもち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義しています。専門医はブラック・ジャックではなく、もつと堅実な医師をイメージする必要があります。そういえば、ブラック・ジャックは無免許でした…



診療看護師

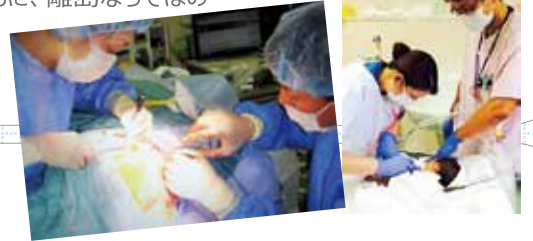
病院企業団では診療看護師（NP）の資格を持つ2名の方が4月より勤務しています。チームの要として、多職種と連携を図り、地域の担い手として活躍されることを期待します！

◆◆吉岐病院 庄山由美(しょうやま ゆみ)看護師◆◆



私は福岡県出身で九州大学病院に就職後、急性期病棟での経験を活かし、救急看護認定看護師を取得しました。その後、大分県立看護科学大学大学院修士課程NPコース<プライマリ領域>で学び、平成26年4月より長崎医療センターでの2年間の診療看護師研修を経て現在に至っています。

今回、離島地域に根ざした多職種連携・チーム医療を学ぶとともに、離島ならではの醍醐味を体感できればと思っております。



◆◆五島中央病院 高瀬絵美(たかせ えみ)看護師◆◆

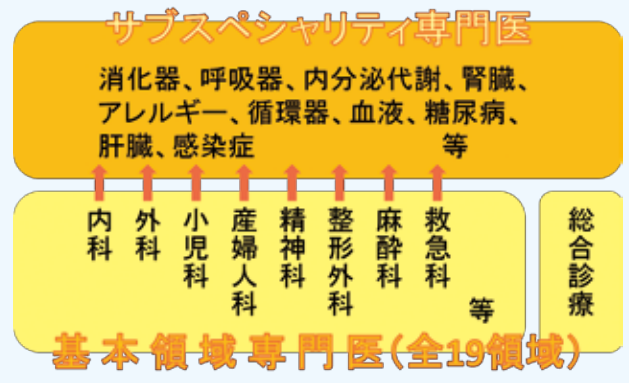


私は病院勤務を経て、訪問看護ステーションに長く勤務していました。訪問看護活動を通し、病態理解に対する能力の限界を感じ、平成26年から大分県立看護科学大学大学院修士課程NPコース<成人・老年プライマリ領域>で学びました。大学院では病態生理学・薬理学・フィジカルアセスメントを強化した包括的健康アセスメント能力獲得を目指し、医師の指導のもと臨床実習も行いました。

今後は能力向上に努め、地域の方々の健康管理や日常生活の継続に貢献できるよう、NPとしての活動をまい進したいと考えております。

基本領域の専門医を取得後、希望者はサブスペシャリティ領域の専門医を目指すことができます。外科専門医を例にとると、消化器外科専門医や呼吸器外科専門医などがサブスペシャリティ領域の専門医となります。逆に言えば、消化器外科専門医になるためには外科専門医であることが条件であり、他の基本領域の専門医を取得していても認められない仕組みとなっています。

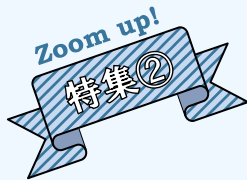
基本領域とサブスペシャリティ領域



POINT 新専門医制度は二段階制

新たな専門医制度は、来年4月に養成が始まる予定なのですが、現時点で申し上げると、少し雲行きが怪しくなっています。2月18日の社会保障審議会医療部会において、「新たな専門医制度の在り方について専門委員会を設けて議論することが決定され、養成時期の延期も議論の対象となるようです。なぜこのような状況となっているか、新たな専門医制度の何が懸念材料となっているかは、長崎県病院企業団に与える影響も含めて、あらためてご説明したいと思います。

今後は引き続き中央の動向を注視
企業団は、養成医の義務期間中に基本領域の専門医まで取得可能な勤務パターンの検討を県に働きかけています。



DPC制度の導入が始まります



DPC制度とは

- 正式名称はDPC/PDPS（DPCを用いた1日あたり包括支払い方式）。DPCとは「診断群分類」（患者を疾患などによりグループ化したもの）のことです。
- これまでは、診療行為ごとに点数を積み上げる「出来高払い方式」が採用されてきました。
- DPC制度では、入院期間中に治療した病気の中で**最も医療資源を投入した疾患**を診療報酬計算の基本とし（「包括評価部分」といいます）、これに手術など、従来どおりの「出来高評価部分」を足して計算します。

DPC制度における入院医療費の計算方法

包括評価部分

- 入院基本料
- 検査
- 投薬
- 注射
- 画像診断など

最も医療資源を投入した疾患の1日あたりの定額点数
× 入院日数 × 医療機関別係数

※1日あたりの定額点数は、「診断群分類」ごとに定められています。

☞診断結果に対する報酬が決まっているので、
医療の質を落とさずに治療を効率的に行えば、
そのぶん収益が上がる仕組みになっています。

出来高評価部分

- 手術、麻酔
- 内視鏡検査
- カテーテル検査
- リハビリ
- 食事 など

医師の専門的な技術料などについては、これまで
どおり出来高方式が採用されます。

☞医療を受ける立場からすると、治療するのに必要な
最小限の費用で抑えられるというメリットがあります。



導入のメリット

- ☞DPCデータを他の医療機関と比較することで、自院の評価をしやすくなり、
提供する医療の質を高めようとする
効果が期待できます。

データ利用の例(右図)

DPCデータには患者住所地の郵便番号が含まれるため、疾患ごとに地域別のシェアを分析することができます。
(右図は、長崎県内の一部のDPC病院のデータを集計したものです。)

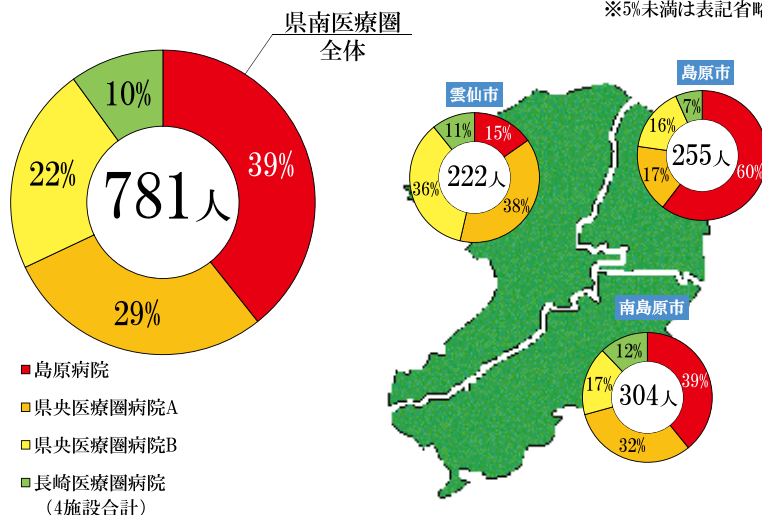


企業団の取り組み状況

- ☞島原病院は平成20年度導入済み。
- ☞離島の基幹病院（五島中央、上五島、対馬、吉岐）では、平成30年度からの導入に向けて準備を進めています。

がん疾患／市町別受診先医療機関の割合

※5%未満は表記省略





ヒトツバタゴ

{シリーズ} 地域から Vol.6

対馬市上対馬町（上対馬病院）

地域の見どころや病院での取り組みなどについて
紹介していただくコーナーです

..... 対馬市について

対馬市は九州最北端。本土から132km。韓国まで49.5km。人口約3万2千人の日本で3番目に面積の大きな国境の島です。南北に細長く、北端から南端までは車で約2時間かかります。

島の北部に位置する上対馬町は日本で一番韓国に近く、条件がよければ、韓国の島々や釜山の夜景を見ることができます。

春は「ヒトツバタゴ」の白い花が咲き、新緑が実に鮮やかに山々を覆い尽くします。夏は日本の渚百選に選ばれた「三宇田浜」をメイン会場に「国境マラソン」が開催されます。秋は「紅葉祭り」が開かれ、韓国からの観光の目玉でもあります。

「上対馬とんちゃん」は、甘辛の焼肉ダレにつけ込んだ豚肉をキャベツやもやし等の野菜と一緒に焼いた料理で、戦後まもなく在日韓国人によって伝えられ、対馬北部でアレンジされたソウルフードです。2012年と2015年の「B-1グランプリ」に出場し、2度にわたり、準優勝に当たる「シルバーグランプリ」を獲得しています。「かすまき」は、カステラに似たガワで餡を巻いたもので参勤交代を終えた藩主を迎えるために考案された対馬の和菓子です。

その他「いりやき」「対馬やまねこ」「しいたけ」「琴の大銀杏」など、詳しくはWEBで。

韓国展望所から望む釜山の夜景



..... 上対馬病院について

当院は一次医療から救急医療、また、急性期から慢性期にわたり、対馬北部地区の住民にとって必要不可欠な病院です。在宅医療に力を入れており、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを併設し、地域に密着した医療を展開しています。

超高齢社会、過疎化という厳しい現実の中で対馬北部地区の中核的医療機関としての機能充実を図り、小児から老人医療まで、予防・治療・機能回復訓練に及ぶ地域包括医療の担い手として、地域住民とともに、健康なまちづくりに努めることを病院運営の基本方針としています。



● Break Time : 「山登りのすゝめ」

春本番。山登りの季節になりました。登山のバイブルである深田久弥の「日本百名山」で紹介されている九州の山は九重山、祖母山、阿蘇山、霧島山、開聞岳、宮之浦岳（屋久島）の6岳です。

今回は、九重山系を紹介しましょう。6月はじめ、ミヤマキリシマでピンクに染まる山、平治岳を目指します。起点は長者原。30ℓ程度のリュックに弁当、飲み物、お気に入りのスイーツか果物、タオル、着替えなどを詰めます。靴は登山靴かハイキングシューズ。坂道が不安な人はトレッキングポール（杖のことです）があったほうがいいでしょう。帽子と手袋も忘れずに！

軽いストレッチを済ませてから出発です。木道を通って木立に入ります。きれいな空気を胸いっぱい吸い込みましょう。最初は平たん、高度を増すにしたがって坂の角度が大きくなっていきますが、それほどきつくはありません。谷をわたると、あえぎが出てきます。その後、ゆるやかに下って平地になり、1時間半ほどで坊ガツル到着です（足に自信のない人はここを到着地とし、山を眺めれば気分は味わえます。双眼鏡があればなおよし）。

小休止のあと、標識に従って平治岳を目指します。木立のなかの石の多い道を我慢して登っていくと、平治岳と大船山の鞍部（大戸越）に至ります。ここからの眺めもすばらしいのですが、せっかくだから頂上まで行きましょう。登りと下りは別々になっています（一方通行）。苦労して登ってきた者だけに与えられる絶景に出会えること請け合いです。

花を愛でながらのランチとお気に入りのデザートは最高。また、坊ガツルをはじめ三俣山、中岳（九重連山の最高峰）の緑したたる景色も目に焼き付けてください。

帰りは来た道と同じコースをたどります。昼食、休憩込み、ゆっくり歩いておよそ7時間の行程です。近くには温泉がたくさんあるのに、そのまま帰るのはもったいない。一番のおすすめは、筋湯温泉の「うたせ大浴場」。汗とともに足腰の疲れを流したあとは、地元のピン牛乳（クルマの運転がなければ、もちろんビールですね！）がおすすめ。のど越しが心地よく、火照った体を冷ましてくれます。

（文：副企業長 川良数行）

編集後記

H28.4.1付人事異動により、5名の方が本部を去ることになりました。特に、副編集長を務めて頂いた犬塚課長補佐には、今号の表紙を飾った素敵な桜の写真や、2015冬号のおせち料理の写真をご提供いただき、編集部一同たいへん感謝しております。

皆様の今後一層のご活躍をお祈りしています！

（ふくよか編集担当）



（左から）稲津主任主事、満尾係長、犬塚課長補佐、北川主事、出口主事

ふくよか

表紙のはなし 桜

日本において桜の人气が高まったのは平安時代といわれ、多くの和歌の題材となりました。桜は開花期間が短く、また潔い散りざまから、しばしば人生の儚さに喩えられます。

平成28年4月発行

編集・発行／長崎県病院企業団本部

〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階

TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759

E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp

URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索